

2026年4月7日

各位

沖縄県労働金庫

**【活動報告】2025年度「ろうきん・あといっぱいプロジェクト」
地域で活躍する高校生・大学生の取り組みをご紹介します！**

沖縄県労働金庫（理事長 東盛 政行）は、高校生・大学生に向けた地域活動・社会活動支援策として「ろうきん・あといっぱいプロジェクト」の寄附先を決定し、2025年7月に寄附金を贈呈しました。

本プロジェクトは、沖縄・地域のために活動したい高校生・大学生を応援する助成金制度となっています。活動資金を得ることが難しい「学生」へ資金支援を行うことで、学生自身が活動を通じて得られる知識や経験の広がり、ひいては沖縄の地域活動・社会活動のさらなる活性化を期待します。

つきましては、高校生・大学生グループから特色豊かな活動報告をいただきましたので、ご紹介しませう。

なお、本プロジェクトについては、2026年度も実施いたしますので、詳細は最終ページをご覧ください。今後も当金庫の理念にある「人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与する」ため、地域活動・社会活動のさらなる活性化に取り組んでまいります。

記

1. 2025年度「ろうきん・あといっぱいプロジェクト」概要

(1) 対象者

沖縄県内で経済、福祉、環境、文化等の地域活動・社会活動に取り組む高校生、大学生のグループ（2人以上）であること。

(2) 寄附額

総額 250 万円、1 グループ上限 10 万円

(3) 応募状況

2025年4月1日～5月31日募集

52 グループを応募受付

高校生：28 校 34 グループ

大学生：25 校 18 グループ

(4) 寄附先決定グループについて

30 グループに寄附決定

高校生：20 グループ

大学生：10 グループ



沖縄・地域のために何かしたい

高校生・大学生の「あといっぱい」を応援!

ろうきん・あといっぱいプロジェクト

寄附金額 総額 140万円* (*1グループ上限10万円)

「沖縄の子どもたちに無料で服を届けたい!!」「環境のことを考えるイベントを開きたい!!」など、高校生・大学生の皆さんが挑戦したいことを応援するプロジェクトです。

募集期間 2025 4月1日(火) ▶ 5月31日(土)

対象者 沖縄県内で経済、福祉、環境、文化等の地域活動・社会活動に取り組む高校生、大学生のグループ(2人以上)であること。
*その他の条件については、チラシ裏面、またはろうきんホームページからご確認ください。

ろうきんカードで、ろうきん・イオン銀行、セブン銀行ATMにてお引き出ししてご利用ください。当金庫が寄附するきん・あといっぱいプロジェクトへ贈呈します。

ホームページはこちら

2. 2025 年度寄附先グループ一覧

No (順不同)	学校名	グループ名	寄附金額	地域
1	八重山農林高校	石垣島の伝統菓子 ヌヌクムチ継承の研究	100,000円	石垣市
2	八重山商工高校	家庭クラブ同好会	60,000円	石垣市
3	名護市立 大宮中学校	笑顔収集社	100,000円	名護市
4	八重山農林高校	八重山農林高校 家庭クラブ	100,000円	石垣市
5	八重山農林高校	モリンガがつなぐ食と未来	50,000円	石垣市
6	八重山特別支援学校	クリーン班	96,000円	石垣市
7	興南高校	興南アクト部	100,000円	那覇市
8	那覇国際高校 球陽高校 開邦高校 那覇西高校	ぶんつーる	100,000円	那覇市
9	南部工業高校	チーム南工 「地域に恩返しプロジェクト隊」	100,000円	八重瀬町
10	美来工科高校	信号機を製作し特別支援学校に贈ろう ～美咲特支小学部と交通安全教育の交流をとおして～	100,000円	沖縄市
11	沖縄高等特別支援学校	OKT舎友会サークル	100,000円	うるま市
12	辺土名高校	辺土名高校サイエンス部	100,000円	大宜味村
13	沖縄尚学高校 那覇国際高校 開邦高校	Toi Toi	35,000円	那覇市
14	名護商工高校	しょーこー'ズ	100,000円	名護市
15	南部商業高校	カジャ！ウリナンブサンオポドゥンハッキョ 가자！우리 남부상업고등학교！（行こう！私たち南部商業高校！）	90,000円	八重瀬町
16	北部農林高校	ふりかけーズ	30,000円	名護市
17	北部農林高校	チーム昆虫食	50,000円	名護市
18	北部農林高校	チームおから	30,000円	名護市
19	那覇国際高校	Up Clothes	100,000円	那覇市
20	宮古特別支援学校	宮古地域貢献隊	41,000円	宮古島市
21	名桜大学	無料塾士EAM	100,000円	名護市
22	<small>青山学院大学 九州大学 京都産業大学 慶應義塾大学 佐賀大学 帝京大学大学院 東京大学大学院 東京都立大学 立教大学 山口東京理科大学</small>	学生団体OPE	100,000円	全国
23	沖縄県立看護大学 琉球大学 名桜大学	沖縄県島嶼ケアコミュニティ	91,000円	那覇市
24	沖縄県立看護大学	ふしやぬふうぐな〜り café	100,000円	那覇市
25	琉球大学	i plus+	100,000円	西原町
26	<small>慶応義塾大学 名古屋大学 向陽高校 沖縄工業高等専門学校 那覇商業高校 糸満高校 那覇国際高校 球陽高校 開邦高校 首里高校</small>	CHURACTION	50,000円	全国
27	沖縄国際大学	手話サークルちゅらとも	100,000円	宜野湾市
28	琉球大学	琉球大学Robotサークル	100,000円	西原町
29	沖縄県立芸術大学	沖芸イベント企画サークル accel.	100,000円	那覇市
30	名桜大学	性教育支援団体 あいあむ	77,000円	名護市
寄附総額			2,500,000円	

3. 活動報告より一部抜粋

(1) 八重山農林高校「石垣島の伝統菓子 ユヌクムチ継承の研究」



忘れ去られそうな石垣島の伝統菓子「ユヌクムチ」を後世に継承するために、本寄附金で研究用の器具と原料を購入し、小中の先生方や生徒へ向けた講習会の開催や、形と味のバリエーションを研究するなどを行った。また、地域イベントなどで試食会を設け、多くの市民へユヌクムチを伝えることができた。

(2) 八重山商工高校「家庭クラブ同好会」(2024年度から2回目の支援)



「ウチナー民話上映会」や「方言サミット」、地域の小学校や老人福祉施設などで、消滅危機言語である「スマムニ(八重山方言)」を使って紙芝居で石垣の民話「人魚と津波」を実演した。活動を通して、民話や方言の大切さを実感し、地域の子どもたちや高齢者の皆さんと交流する機会にも恵まれた。

(3) 名護市立大宮中学校「笑顔収集社」



iPadで検知された笑顔が「1笑顔=1円」として換算され、寄付へとつながる仕組みを利用して、名護市内の子ども食堂へ寄付している。この寄付金は、県内企業が本取り組みに賛同し、広告料として提供。校内や他校へiPadを設置し笑顔を集める活動、名護市のイベントや大阪万博へ参加するなど取り組んだ。

(4) 八重山農林高校「八重山農林高校 家庭クラブ」



高校生としてできる子ども食堂を実施し、自分たちで育てた生産物や島の食材を使い、子どもたちに栄養豊富な美味しい食事を提供した。学校で採れた規格外の野菜とバジルを使用したラタトゥイユや飼育している鶏の卵を活用したコーンとチーズ入りスコーンの提供、島野菜クイズや紙芝居の読み聞かせなど食育活動も行った。さらに、12月には沖縄県の学校家庭クラブ研究発表大会でこれまでの活動を発表し、教育庁賞を獲得した。

(5) 八重山農林高校「モリンガがつなぐ食と未来」



石垣島のスーパーフード「モリンガ」を活用した防災食および特産品開発の研究を行い、いただいた活動資金により、妥協のないレシピ開発が可能となり、ひとり親世帯へのクリスマスプレゼントや、行政へのふるさと納税返礼品の提案など、当初の計画を上回る多角的な活動を実現できた。

(6) 八重山特別支援学校「クリーン班」



地域の清掃活動として、公民館敷地周辺および駐車場の草刈りを実施した。寄附金を使って購入した電動草刈り機の操作から刈り取った草の集積・袋詰め・掃除まで全て生徒が行った。生徒たち同士で声を掛け合いながら協力して作業を行い、清掃終了後、公民館職員から感謝を伝えられ、「地域のためにできてよかった」と生徒たちの表情は達成感に満ち溢れていた。

(7) 興南高校「興南アクト部」



仲間と息を合わせるワークショップ



内観（自分の感情に注意を向ける）



シナリオを元にシーンをつくる稽古



観客の立場で「観る」とは何かを考える

沖縄の若者が地元・沖縄のことを深く理解し、その魅力を同世代の人たちに伝える活動を行っている。部員の伝える力を伸ばすために、寄附金を活用して外部講師を招いたワークショップを開催した。部員たちが「相手を観る力」「自分の思いを言葉や表現で伝える力」を学ぶ貴重な機会となった。首里城ガイドや平和学習など、日々の交流活動の質を高める上でも、大きな成果を得ることができた。

(8) 那覇国際高、球陽高、開邦高、那覇西高「ぶんつーる」



沖縄の体験格差問題を文通によって解決するべく、沖縄県内の離島地域において、文通ワークショップを実施した。石垣島、久米島、名護市、読谷村など普段行くことが難しい地域へ寄附金を利用して行き、子どもたちや地域住民の方々と共に手紙を書く体験を通して交流を生み出す活動を行った。オンラインでも繋がれる時代にリアルで会いに行くことは、新鮮で学びが多かった。

(9) 南部工業高校「地域に恩返しプロジェクト隊」



塩ビパイプを用いたプッシュアップバー製作体験



木工体験(コースター製作)

近隣地域の小学5年生を招いた交流学习会を2回に渡って開催。延べ60名余りの小学生がプッシュアップバー製作とコースター製作を体験し、高校生との交流を深めた。本校への来校は初めての児童も多く、とても新鮮な体験だったとの感想が聞かれた。後日、開催された工業祭(南工フェスタ)には、交流学习に参加した児童とその家族が来場することにつながった。

(10) 美来工科高校「信号機を製作し特別支援学校に贈ろう」



特別支援学校で交通安全教室の実施を目指して、移动式信号機の製作に取り組んだ。企業見学を通して実際の信号機の仕組みを学び、外装の組立てや台車加工、電源部の準備を班で協力しながら進めた。学んだ内容を校内で発表することもできた。信号機を年度内に完成させることはできなかったため、後輩たちへ引き継ぎ、信号機を完成させ交通安全教室の実施を目指す。

(11) 沖縄高等特別支援学校「OKT 舎友会サークル」



マラソン大会などへ参加し、みんなで楽しく走っており、今回の寄付金を利用して念願のサークルTシャツを製作した。みんなでデザイン案を出し合いながら製作したTシャツは予想以上の仕上がりとなった。うるま市主催の「あやはし海中ロードレース大会」へ製作したTシャツを着て参加し、ランナーとして完走後に給水係ボランティアとしても活動を行った。

(12) 辺土名高校「辺土名高校サイエンス部」



校舎内に設置されている生き物博物館老朽化のため、備品や水槽の買い替えを行った。また、水槽台も制作中で沖縄に住んでいるハゼを下流・中流・上流のように棲んでいる場所ごとに展示する予定。これまで、ボロボロの状態で地元の小学生へ生き物博物館の案内を行っていたが、今回新調したことによって、気持ちよく案内をすることができるようになった。

(13) 沖尚、那覇国高、開邦高「Toi Toi」



那覇市内の小学生を対象にゲーム感覚で学習を楽しんでもらう「学習応援プロジェクト」の運営を行った。短い時間の中で子ども達とたくさんのコミュニケーションを交わし、子ども達の学習に対して教えてあげる立場ではなく、気持ちに寄り添い一緒に考えて解決する立場になることが大切という私達にとっても大きな学びとなる場になれたと実感した。

(14) 名護商工高校「しょーこーず」



夏休み期間中に名護市立博物館にて「夏休みものづくり木工教室」を開催。小学生を対象に、「プランターカバーウッドボックス ミニ」の製作を行い、子どもたちが自分の手で木材を切り、組み立て、世界に一つだけの作品を完成させた。完成後はひまわりの種を植え、夏休みの自由研究としても活用できる内容とした。

(15) 南部商業高校「^{カジャ}가자! ^{우리}우리 ^{남부상업고등학교}남부상업고등학교! (行こう! 私たち南部商業高校!)」



寄附金を活用して語学の講座を受けたことで、参加してくれた人の学習意欲が高まった。また、日程の調整や呼びかけを行い、どのようにしたら受講する人が増えるかなど考えることが多く、企画した私たちの成長にも繋がった。さらに現在、学校内での外国語の夏期講座の実施に向けた検討が進みだしている。

(16) 北部農林高校「ふりかけーズ」



沖縄県産のシークワサー果皮といった地域農産物の未利用資源に着目し、その有効活用方法を科学的に研究する中で、専門家、企業、地域農業関係者の皆様から貴重な助言と原材料の提供をいただきながら、研究の成果を高めることができた。また、研究成果を広く発信し、客観的な評価を得るため、コンテストや発表会に出品した。

(17) 北部農林高校「チーム昆虫食」



次世代のタンパク源および優良な脂質として注目される昆虫食サゴワーム（ゾウムシの幼虫）を活用したマフィンの試作に成功し、サゴワームの栄養価や安全性についての科学的なデータを取得できた。また、複数のコンテストや発表会を通じて、昆虫食の可能性と本取り組みを広く周知でき、特に OIST の SCORE! では英語で発表を行い、これまでやったことがない経験をすることができ、自がついた。

(18) 北部農林高校「チームおから」



地域の未利用資源であるおからの有効活用方法を確認し、食品ロス削減への理解を深めることができた。専門家の皆様から貴重な助言と技術指導をいただき、地域の事業者や教育機関、専門家との連携ネットワークを構築することができた。試作した蒸しケーキは、評判がよく、専門家の方からも販売の可能性を示唆されたことから、レシピを後輩に引き継いでいきたい。

(19) 那覇国際高校「Up Clothes」



廃棄予定の衣類を用いたアート作品を制作するワークショップを計3回開催。いずれの回も老若男女問わず多くの方が参加してくださり、個性あふれる素晴らしい作品がたくさん完成した。また、衣類廃棄問題の現状や古着の可能性について発信する貴重な機会ともなり、ワークショップの開催を通して、活動を応援してくれる方や新しい出会いにも恵まれた。

(20) 宮古特別支援学校「宮特地域貢献隊」



学校が所在する狩俣地区の道路清掃と草花の植え付け作業による緑化活動に取り組んだ。特に、島の大きなスポーツイベントであるトライアスロン大会やワイドマラソン大会前に、コースの大掃除を行い、大会事務局や地域の方々から感謝の言葉を頂いた。寄付金を使い、竹ぼうきや一輪車バケット購入した。

(21) 名桜大学「無料塾土EAM」



子どもたちが主役になる一日を作ること・地域の働く人やその内容を知る小さな体験機会を通して自身の興味関心を考えることを目的とした「YAMALab(ヤマラボ)」という職業体験イベントを開催した。名護警察署によるパトカー乗車体験や、Softbank は Pepper を使用したラジオ体操やプログラミング体験などを実施し大いににぎわった。

(22) 青山学院大学、九州大学、京都産業大学、慶応義塾大学、佐賀大学、帝京大学大学院、東京大学大学院、東京都立大学、立教大学、山口東京理科大学 「学生団体 OPE」



沖縄の高校生を対象とした進路支援イベント「うちなーんちゅ進学応援 EXPO2025」を開催した。参加した高校生が自身の興味・関心を見つめ直し、進路について主体的に考えるきっかけを提供することができた。ワークショップでは、自身の興味・関心を再分析したり、大学生活のイメージを広げたりすることができた。事後アンケートからも、「視野が広がった」「進学をより現実的に考えられるようになった」といった前向きな声が多く寄せられた。

(23) 県看、琉大、名桜「沖縄県島嶼ケアコミュニティ」



沖縄県内の医療系学生を対象に多職種・多学年学生の連携・交流の場、学習意欲向上、救急医療に関わる知識・技術の重要性を実践的に学ぶことを目的に、「第2回沖縄県学生メディカルラリー」を開催した。約80名が集い、混成チームを組み、気管挿管や救急車内処置など臨場感のあるブースを設け、判断力、伝達力、チームワークなどノンテクニカルスキルも学び有意義な取り組みとなった。

(24) 沖縄県立看護大学「ふしやぬふ うぐな〜り café」



高校進学のため沖縄本島に島立ちした多良間島出身の高校生へ生活面・人間関係・勉強面をサポートするため交流会を11回開催。活動を通して、島や親元を離れて生活をしている高校生がたくましく成長している姿を拝見でき、彼らが安心して沖縄本島での生活に馴染めるように「心のよりどころ」「居場所づくり」を支援することができた。

(25) 琉球大学「i plus」



沖縄県の島嶼地域における児童生徒の学習環境の格差を是正することを目的とし、地域の方々から不要になった学習参考書や教材、児童図書等を回収し、必要とする子どもたちへ再配布する取り組みを実施。教育支援活動を行う中で、「生徒のレベルと使用する参考書の難易度にギャップがある」「島に書店がなく本へのアクセス機会が不足している」という課題が明らかになった。不要になった学習教材を再活用する仕組みを構築し、学習支援活動と連携させることで、教材が実際の学びに結びついた。

(26) 慶応義塾大学、名古屋大学、向陽高校、沖縄工業高等専門学校、那覇商業高校、糸満高校、那覇国際高校、球陽高校、開邦高校、首里高校 「CHURACTION」



「地域教育・キャリア教育の実践深化」を目的とした交流活動および個人プロジェクト推進期間を実施。那覇市議員の方、沖縄の老舗企業青い海シママースの関係者の方と世代を超えた交流会を開催し、同年代の意見交換にとどまらず、沖縄で実際に活躍されている大人の方々と対話することで、より具体的なキャリア観を育む機会となった。

(27) 沖縄国際大学「手話サークルちゅらとも」



手話の存在や共生社会のあり方について理解を深めることを目的に講演会を開催。日本手話と日本語対応手話の違いへの理解は深まったことや、ろう者が日常生活で直面する困難に気づくことができたという声が多く寄せられた。また、筆談や身振りによるやり取りを通して、相互理解の大切さを実感する機会となった。

(28) 琉球大学「琉球大学 Robot サークル」



CAD体験会やプチロボットコンテストなどを開催。CAD体験会では、ものづくりにおいてはCADというソフトは重要なものであるため、CADソフトを用いてキーホルダーを作成し、CADについて学習しながら、自らが作成する達成感を得られる体験会を実施した。

(29) 沖縄県立芸術大「沖芸イベント企画サークル accel.」



演出・出演・舞台美術・音響・照明・運営に至るまでを学生主体で担当し、パペットミュージカル公演を実施。制作から上演までの全工程を学生が担い、分野横断的な協働による実践的な表現活動を行った。当日は客席 300 席が満席となり、多くの来場者を迎えて無事終演した。

(30) 名桜大学「性教育支援団体 あいあむ」



性の多様性を“特別な話”ではなく、自分たちに身近な話であることを知ってもらうため性の多様性啓発イベントを複数開催した。LGBTQ学びフェス in やんばるのイベントでは、参加者が「当時使用していたランドセルの色」と「現在使ってみたいランドセルの色」を塗るワークや、自身の「好き」を自由に表現するサンドアート体験を実施した。

4. 2026 年度「ろうきん・あとっぱプロジェクト」募集概要

2026 年度においても、「ろうきん・あとっぱプロジェクト」助成先グループを募集します。募集期間、応募方法は以下の通りとなりますので、ご応募お待ちしております。

(1) 応募期間

2026 年 4 月 1 日(水)～2026 年 5 月 31 日(日)

(2) 助成額

総額 150 万円、1 グループ上限 10 万円

(3) 応募方法

下記のQRコードから応募要領を確認し、応募書類を沖縄県労働金庫（経営統括部）にEメールにてご提出ください。



以上

本件に関するお問合せ先
沖縄県労働金庫 経営統括部
経営企画課 担当：玉城・平良
TEL：098-861-1196